

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104018		
法人名	株式会社セービング		
事業所名	グループホームあやらぎ		
所在地	山口県下関市綾羅木新町1丁目16-13		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町受理日	平成23年9月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成23年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭と同じ環境で、自分らしさを持って笑顔で楽しく安心感を持って生活して頂けるよう、支援している。(ユニット1)
日常生活を通じて、出来る事を続けられるよう支援しながら、利用者が安心して楽しく居心地よく過ごせる住まい。(ユニット2)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者や施設長が頻繁にホームを訪れ、利用者や職員と一緒に食事をしながら意見交換をするなど、信頼関係を築いておられます。職員間のつづやきノートを作成して、利用者の思いや要望や職員各自のケアの反省などを記載し、ケアの共有、職員間の心のケアにつなげておられます。地域婦人会、老人会、大学生等のボランティアの受け入れ、非常時の連絡体制等、地域との交流に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1) ユニット1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作り、その理念に沿って日々の介護を行う。出勤の際に理念の意味を再確認して介護にあたる。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事務所と共用空間に掲示して、申し送り時に全職員で唱和し、共有を図るように努め、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	
1	(1) ユニット2	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、その人らしく暮らし続けられるように理念を定め、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアの方々と共に、清掃活動を行っている。また、地域の文化祭やお祭りなどに参加する様になっている。 施設の避難訓練の際には、地域住民にも参加して頂いている。	自治会に加入し、市報や行事の案内チラシ等を配布してもらっている。月2回地域のボランティアと共に清掃活動を行う他、公民館の文化祭や神社の夏まつりなどの地域行事にも参加している。地元の大学生の実習も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学希望者を随時受け入れている。また、学生や資格取得訓練機関などの実習生などを積極的に受け入れている。職員の中でキャラバンメイトの資格者を増やしながらか地域の認知症の啓蒙を行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員個々分担して行い、それぞれが自己評価を作成する事により、自分たちのケアなどを見直している。また、外部評価でのアドバイスを活かし、ケアの向上に役立てている。	評価の意義を理解し、自己評価を全職員に配布し、項目別に記入して、管理者がまとめている。評価を活かして改善やケアの見直しなどに取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の取り組みに加え、ヒヤリハットや事故報告なども報告する様にし、第三者からアドバイスを頂くように心掛けている。また、施設からも委員へ質問を投げかけアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1回の開催で、利用者の状況報告、行事報告、ヒヤリはつとや事故報告、避難訓練の実施、外部評価の報告等について話し合い、そこでの意見をサービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症サポーター養成講座や栄養面でのア ドバイス等で、保健所と連携をはかっている。 サービスの取り組みなどで不明な点など があれば、市町担当者と連絡を取るなどし、 協力関係を築くようにしている。	事業所の抱えている課題等については、管 理者を中心に市の介護保険課、保健所に相 談や情報提供を行い助言を得るなど、協力関 係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サ ービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サ ービス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含 めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1度のミーティングの中で、身体拘束に 関する研修を取り入れるなどし、身体拘束に ついて正しく理解できるように努めている。ま た、職員同士で協力して施錠をしないケアに 取り組んでいる。	マニュアルがあり、研修を実施し、職員は正し く理解して、抑制や拘束のないケアに努めて いる。玄関は施錠していない。外出に気がつ いた時はさりげなく一緒に出かけるなど配慮し ている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	月1度のミーティングの中で、高齢者虐待を 研修に取り入れるなどしている。また、施設 内での虐待が無いように努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必 要性を関係者と話し合い、それらを活用でき るよう支援している	高齢者虐待の研修の中で触れたが、深くは 研修等を行っていない。今後、関係機関との 橋渡しを行う事ができるよう、知識を得る機 会を持ち、理解を深めるように努める。		
10	ユニ ット 1	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明 を行い理解・納得を図っている	契約の際には、こまめに疑問がないか投げ かけ、安心して契約等を行えるように努めて いる。また、重要説明事項と契約書の控えを 渡し、質問や疑問等があれば、その都度対 応している。		
10	ユニ ット 2	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明 を行い理解・納得を図っている	可能であれば本人も同席し、本人や家族の 不安や疑問に対し、十分な説明を行い、理 解、納得を確認しながら行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要説明事項の中に苦情についての窓口や解決に向けての流れなどを記載している。また、苦情受付第三者委員を設置している。玄関に意見箱を設置し、意見を出しやすい環境を整えている。	月2回の家族会、訪問時、行事等に意見や要望を聞くと共に、アンケートを実施して、その内容を運営に反映させている。窓口及び担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きも定めている。	
12	(8) ユニ ット 1	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や施設長が毎月4回、入居者や職員と一緒に食事をする機会を設け、その際に職員から意見や提案を聴き、反映できるように努めている。	毎週火曜日に運営者と施設長が利用者、職員と食事をする機会があり、その際に有給休暇の使い方や研修の要望、提案など、職員からの意見を聞き運営に反映している。	
12	(8) ユニ ット 2	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を受け入れ、代表者、管理者を含めたミーティングを開催している。		
13	ユニ ット 1	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務を作成する前もって休み希望の日を聞き、働きやすい環境になるように努めている。また、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
13	ユニ ット 2	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者の頻繁な現場訪問による現状把握と管理者の日常の状況把握から、現場環境や条件の整備に反映させていく努力をしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1度のミーティング時に、様々な研修を取り入れている。また、外部研修の案内などを回覧し情報提供している。外部研修については有給休暇を確保するなど働きながらトレーニングができるように努めている。	外部研修の機会を提供し、職員は勤務経験に応じて勤務の一環として受けている。有給休暇を利用した個人のスキルアップへの配慮、月1回のミーティング時の内部研修など、職員が学べる機会を確保している。新人職員には働きながらのトレーニングを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15	ユニット1	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、同業者とのネットワークや交流をはかれるようにしている。		
15	ユニット2	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。それによる同業者との交流やネットワークの実施の努力、研修会などによる職員同士の交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16	ユニット1	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で、本人の話をしっかり聴いて本人の思いを受け止める。また、本人が相談に来た時、じっくり話を聴いて安心してもらいながら信頼関係の構築に努めている。		
16	ユニット2	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの訴えを職員は何をしてもその場で傾聴し、本人が持つ困難、不安、要望などを安心するまでコミュニケーションをはかっている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前後で家族からしっかり話をし、不安な点や困っている点を聴きながら家族との信頼関係の構築に努めている。		
18	ユニット1	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との会話や情報提供資料、センター方式からの情報を活かし、何が一番必要なのかを見極めながら支援するように努めている。		
18	ユニット2	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者との対話の中から、優先順位を判断し、確認して職員全員でサービスに反映し、対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理など生活全般にわたりできる範囲で共に行えるように各自に役割を持って頂きながら関係を築くように努めている。		
20	ユニット1	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡等、家族と話す時間を作り、ホームでの様子をお知らせし、家族が協力できることがあれば、しっかり話し合ったうえで協力していただきながら支援するように努めている。		
20	ユニット2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にできるよう共に過ごせるイベントを開催したり、本人を支えていく為の話し合いの場を定期的に設けている。		
21	(10) ユニット1	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないよう、友人に面会に来ていただくなど、家族に協力を仰ぎながら支援していくように努めている。また、ニーズに応じて外出介助をするなどしている。	利用者が以前利用していた美容院に行ったり、昔からの友人や近所の人にも来訪してもらうなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。家族の協力を得て、墓参りや温泉などに出かけている。	
21	(10) ユニット2	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の大切な人や場所との関係を途切れないように日々生活の中で感じることでできる支援に努めている。		
22	ユニット1	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室にこもることのないように、皆でできるゲームをしたり、皆で過ごす機会を増やして話しやすい環境作りをし、孤立することのないように職員同士で話し合いながら支援するように努めている。		
22	ユニット2	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	事前の情報やセンター方式、日々感じたことから利用者それぞれの性格や個性を活かすとともに、関係を把握して相互に関わりながら生活できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、本人の所へ足を運んだり、家族と連絡を取り合いながら今後の相談や支援をするように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11) ユニット1	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を聴きながら、自己決定を尊重している。センター方式や情報提供資料などから今までの生活歴をしっかりと把握したうえで希望や意向を聴き心のこもった対応に努めている。	センター方式を活用して、家族からの情報や生活歴の把握に努め、本人の思いや意向に添えるように努めている。利用者の思いがけない言葉などは、つぶやきノートに残すようにしている。	
24	ユニット2	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や情報提供資料などから今までの生活歴をしっかりと把握したうえで希望や意向を聴くようにしている。困難な場合は本人本意の介護計画を作成している。		
25	ユニット1	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前の家族との話の内容やセンター方式、情報提供などを回覧し、生活歴や馴染みの暮らし方など把握ができるように努めている。また、情報を事務所の観覧しやすい場所に置き、いつでも見直せるようにしている。		
25	ユニット2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の生活歴を活用したり、本人や家族から聴取し、これまでのサービス利用の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士でしっかりと申し送りを行い、ケアが途切れないように努めている。また、月に1度ミーティングの中で入居者全員、1人ひとりに対して話し合う時間を設け心身の変化や現状の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に担当者会議を行い、家族の意向や本人の意向を反映させながら介護計画を作成している。また、面会時などにも本人の様子を伝えるようにし必要に応じてケアに取り入れるように努めている。	計画作成者、利用者の担当職員を中心にケアカンファレンスを毎月1回開催し、利用者の意見や面会時、電話等で聞いた家族の要望等を参考にして話し合い、介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に細かく記録するようにし、変化があった場合は連絡ノートに記入し、情報を共有している。また、必要に応じて職員同士や家族と話し合い介護計画の見直しに活かせるように努めている。		
29	ユニット1	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて定期的な日程以外のドクターの往診の依頼や、カラオケ教室などの外出介助を行ったりしている。		
29	ユニット2	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、ニーズに応じて定期的な日程以外のドクターの往診の依頼や地域美容室の訪問理美容などは行っているが、今のところ特別なニーズは出されていない。		
30	ユニット1	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のカラオケ教室に通ったり、地域の美容院に訪問してもらい散髪をしてもらったりしている。また、地域ボランティアを受け入れるなどし、楽しく暮らせるように努めている。		
30	ユニット2	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の美容院に訪問してもらい散髪をしてもらったりしている。また、地域ボランティアを受け入れるなどし、楽しく暮らせるように努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医療機関はあるが基本的に、かかりつけ医の決定は本人や家族が自由に決めていいようにしている。適切な医療やアドバイスが受けられるよう、情報提供も行っている。	協力医の他、利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。他科受診は家族と協力して通院介助の支援をし、情報の共有を行っている。協力医には2週間に1回の往診をしてもらうなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気になる点や気づきを訪問看護師に随時相談し、対応に努めている。また、急な発熱などに関しては、看護職員に報告し適切な医療や看護が受けられるように努めている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に足を運び、本人の状態を把握しながら家族や主治医と情報交換や相談を行っている。また、ホームでは職員同士で情報を共有し、受け入れ体制を整えておくなど、早期に退院できるように努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」についての説明と、施設できることを説明している。また、協力医療機関にも相談しながら取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合における指針」を利用者、家族に説明している。状態によって医師、看護師、家族、職員等で早い段階から話し合うことで方針を共有し、家族会でも対応の説明をするなど、思いに寄り添う柔軟な支援に心がけている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	年に1度、応急手当の実習を行っている。また、ミーティング時にリスクマネジメントの研修を行い、ヒヤリハットのあり方を再確認して事故防止につなげられるように努めている。	ヒヤリハット報告を基にした事例シートでの検討、ミーティング時のリスクマネジメントの研修で、一人ひとりの事故防止対策に取り組んでいる。年1回の救急救命法、AEDの講習を受講しているが、全職員を対象とした応急手当や初期対応の定期的訓練は行なわれていない。	・応急手当、初期対応の定期的な訓練の実施
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットの活用や発生時の対応マニュアルなどの設置、全職員による研修などを行い、事故防止、急変時への対応の徹底を行っている。また、年に1度、応急手当の実習も行っている。		
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や水害などの訓練は行っていないが、訓練の前に地域に案内を配布するなどし、協力が得やすいように努めている。災害に関しては、月1度のミーティングで研修するなどしている。	防災マニュアルの作成、年2回の夜間想定を含めた避難訓練、消火器の使い方などを実施している。地域婦人会の方が主として訓練参加のチラシを配布され、地域住民が14人程度参加、連絡網も作成されて、協力体制が整いつつある。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17) ユニ ット 1	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような言葉かけや対応を心がけている。	プライバシーマニュアルがあり、今年度は「接遇とマナー、介護のポイント」と題して研修を実施し、利用者に対する尊敬の念やプライバシーを損ねるような言葉遣いや態度に気をつけることを学んでいる。	
37	(17) ユニ ット 2	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員による言葉かけ対応には気をつけている。記録や個人情報の取り扱いは厳重に行っている。		
38	ユニ ット 1	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理の無いようにいろんな事をしていただき、その中で本人の希望や自己決定ができるように努めている。		
38	ユニ ット 2	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表しやすい環境作りを行い、自己決定ができるような接し方に努めている。		
39	ユニ ット 1	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿って過ごしていただけるよう、支援している。		
39	ユニ ット 2	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、心身の状況に応じ、希望に合わせた支援を行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度、地域の美容室に散髪に来ていただいたり、パーマやヘアカラーなどの要望がある場合は、家族へ連絡したり、美容室まで外出介助をしたりしながら支援している。		
41	(18) ユニット1	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	朝、昼、夕3食作るようにし、できる範囲で一緒に参加してもらいながら支援している。	事業所で三食調理し、利用者一人ひとりのできることに応じて調理の下ごしらえや配膳等を一緒にしている。近所から貰った物や畑で収穫した野菜を利用するなど工夫したり、同じ料理を一緒に食べながら会話し、ゆっくりと食事が楽しめるように支援している。献立については、保健所の栄養士の指導を受けている。	
41	(18) ユニット2	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも手作りしており、積極的に調理や配膳準備などへ参加していただくよう声かけを行っている。食事の感想など話し合いながら支援するように努めている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量や水分の摂取などを記録している。保健所の栄養士からも助言や資料をいただき、工夫するようにしている。		
43	ユニット1	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のできる範囲で、食後に歯磨きやうがい、義歯の洗浄などを行っている。		
43	ユニット2	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、順番に声かけし見守りながら、できる範囲で食後に歯磨きやうがい、義歯の洗浄などを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録などから個々の排泄パターンを把握し、定期的な声かけやトイレ誘導をするようにしている。また、排便が滞らないよう、主治医や看護師と連携し調整をしながら支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターン、生活リズムの把握に努め、排泄の自立を促すために、時間を見図りながらトイレ誘導をしている。	
45	ユニット1	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、できるだけ野菜中心のメニューにするように心がけている。また、ラジオ体操や散歩など運動も取り入れながら支援している。主治医や看護師と連携をはかりながら支援している。		
45	ユニット2	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに行い、できるだけ野菜中心のメニューにするように心がけている。また、体操や散歩など運動も取り入れながら支援している。主治医や看護師と連携をはかりながら支援している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日おきに行い、本人の希望に応じた入浴方法で楽しく満足していただけるよう支援している。また、入浴日以外でも希望があれば入れてあげるようにしている。	入浴は1日おきであるが、11時から15時までの間に午前と午後の2回に分けて、時間を気にすることなくゆっくりと入浴できるなど、一人ひとりの希望に応じての支援をしている。拒否された場合には、タイミングをずらしたり、シャワー浴や清拭をするなどの対応をしている。	
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日おきに行っているが、入浴に希望を確認しながら支援するように努めている。また、入浴日以外でも希望があれば入れてあげるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠るまでの時間の過ごし方を配慮したり、眠れない場合は、できるだけ寄り添うようにし安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の作用等が書いた資料を事務所の観覧しやすい場所に置き、確認しやすいようにしている。内容が変わった場合は連絡帳に記入し、情報共有している。また、薬剤師とも連携をはかり服薬ミスをした場合の24時間相談窓口も確保している。		
49	(21) ユニ ット 1	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や事前資料、家族との話の中から本人の生活歴や得意なことを把握し、家事や楽しみ事をして過ごしていただいている。歌や縫い物、塗り絵や畑の世話など本人の好きなことができるように努めている。	編み物、雑巾縫い、掃除、洗濯物干し、野菜作り、ラジオ体操、ジグソーパズルやボランティア(マンドリン演奏、合唱、フラダンス、カラオケ等)との交流、家族と一緒に餅つき、クリスマス会等で、活躍できる場面づくり、楽しみ事、気分転換等の支援をしている。	
49	(21) ユニ ット 2	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式や事前資料、家族との話の中から本人の生活歴などを把握し、家事などをしていただきながら支援するように努めている。また、気分転換の散歩などを行っている。		
50	(22) ユニ ット 1	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候が良い日には散歩に出掛けている。また、定期的に外出や外食なども取り入れている。	定期的に外出の日を決めて、外食や花見(コスモス、紅葉、園芸センターの花)、ドライブ(考古博物館、火の山公園など)、日常の買い物、散歩など、家族の協力を得ながら、利用者の状況や希望に合わせて、戸外に出かけられるよう支援している。	
50	(22) ユニ ット 2	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望があれば家族と相談し、できるだけ希望が叶うように家族と共に支援していくように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	ユニット1	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おやつと日用品など、本人の希望に応じて職員と一緒に買い物に行き、支援している。		
51	ユニット2	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族からお預かりし、管理は基本的に施設側で行っているため現在、利用者個々で所持はしていない。日用品等の買い物や外出の際は、お金を渡し使えるように支援している。		
52	ユニット1	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる範囲で職員と一緒に家族へ向けて年賀状を書いたり、携帯電話を持っている方に関しては、職員が操作を手伝いながら連絡ができるように支援している。		
52	ユニット2	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	できる範囲で職員と一緒に家族へ向けて年賀状を書いている。また、電話の要望があれば家族と相談し、応じられるように努めている。		
53	(23) ユニット1	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と共に常に清潔に保ち、季節の草花を置いたり、絵画や装飾物などに工夫して季節感を持たせるように努めている。	日当たりの良い明るい共用空間には、みんなの座れるソファやたたみが置かれ居心地のよいスペースとなっている。壁には職員や利用者の手づくり作品、利用者の楽しい笑顔いっぱい行事の写真がたくさん掲示してある。家庭的で居心地よく過ごせるように工夫している。	
53	(23) ユニット2	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた絵画や装飾物などで季節感を持たせるように努めている。また、写真パネルなどを作成し、掲示するなど過ごしやすいアットホームな雰囲気作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	ユニット1	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や、少し離れた廊下のスペースにソファを置くようにし、好きな場所で過ごしてもらえるように工夫している。		
54	ユニット2	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が過ごせるように、職員の目の届く範囲でソファの位置を工夫している。		
55	(24) ユニット1	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望の物や馴染みの物を置いていただくようにし、居心地よく過ごせるよう工夫している。	鏡台、茶ダンス、仏壇、仏像、柱時計、珈琲カップ、化粧品、写真、本、小タンスなど使い慣れた家具類や愛着のあるものを活かして、本人が居心地良く、安心感を持って過ごせるよう工夫している。	
55	ユニット2	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人ひとりの好みの物を飾ったり、使い慣れた物や写真、ぬいぐるみ、仏壇など本人が居心地良く生活できる環境を整えるように心がけている。		
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、お風呂などに手すりを設置したり、畳のスペースの角を丸くしゴムカバーをつけるなど、個々の状態にあわせて安全で自立した生活が送れるように工夫している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームあやらぎ

作成日：平成 年 月 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		応急手当で、初期対応の定期的な訓練が年1度 のみで、定期的に行われていない。	定期的に応急手当、初期対応の訓練を行 う。	年1度は、救急隊の方に指導していただい るので、様々な資料を活用し、年3～4回は訓練 や研修を行う。	12ヶ月
2		避難訓練に関し、地域住民にも参加していただ く訓練が少なく、協力体制化薄い。	全ての避難訓練に関して参加を呼び掛け、 より良い協力体制を構築する。	運営推進会議などで、出席を呼びかけたり、地 域の婦人会や自治会へ協力を得る。	12ヶ月
3		入居者さんの思いの把握をもっとできるようにす る。	個別ミーティングや全体ミーティングを通じ て、情報共有をはかる。	センター方式を活用し、入居者さん個々の思い を拾いあげる。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。